

風の松原における地域と連携した整備について

米代西部森林管理署 ○永野 隆義
森川 寛

1. はじめに

「風の松原」は、能代市の海岸部に連なる海岸防災林です。延長は14km、面積は760haと我が国屈指の規模で、江戸時代から長い年月をかけて現在の森になりました。

当署の管理する国有林は、米代川河口の両側に位置しており、面積は343haです。広いところでは幅1kmに及び、市民を飛砂や強風、津波の被害から守るとともに、市街地に隣接した憩いの森として親しまれています。

今回は、「風の松原」における地域と連携した整備として、地域一体となった松くい虫被害から「風の松原」を守る取り組み、市民の声を聞きながらの「健康づくりのみち」の整備について紹介します。(写真-1)

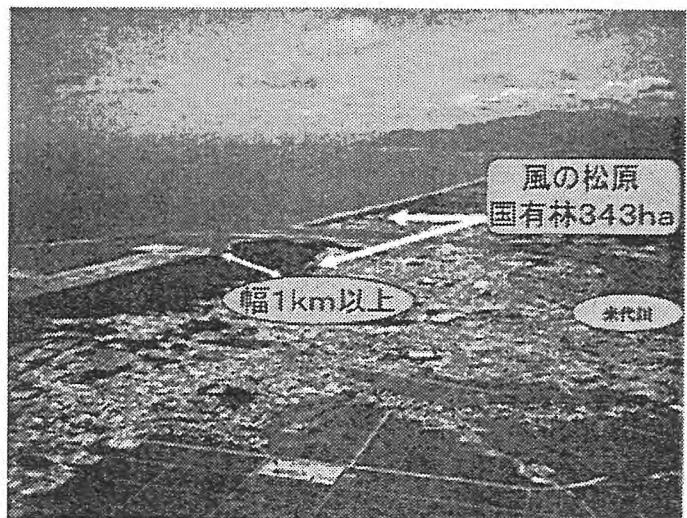


写真-1 風の松原の状況

2. 地域一体となった、松くい虫被害から「風の松原」を守る取り組み

(1) 松くい虫被害の拡大防止

北上してきた松くい虫の被害は、平成11年には「風の松原」にも及びました。

松くい虫被害の拡大を防ぐには、被害木の伐倒駆除と薬剤散布による予防措置を行うことが効果的です。

市街地に近い「風の松原」で、薬剤散布を行うには、地域の方々の理解が不可欠なため、県や市と協力して説明会を開催するほか、風向きや入り込みを考慮した薬剤散布を行い、被害の拡大防止に努めています。

(写真-2)



写真-2 スパウダーによる薬剤の散布

(2) 松原を守る市民ボランティア大会の開催

松くい虫被害から松原を守る取り組みは、市民参加という形でも行われています。

平成15年からは、ボランティア団体や自治会、地元企業、行政機関などの参加による「風の松原を守る市民ボランティア大会」が千人規模で開催され、マツノマダラカミキリの産卵対象となる松の枯れ枝の搬出が行われています。(写真-3)

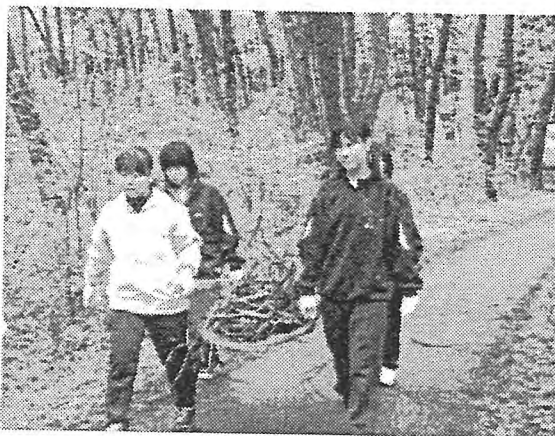


写真-3 高校生による
松の枯れ枝運び

平成17年度は大会も3年目となり、集められた松の枯れ枝は、10トントラックで12台分になりました。松の枯れ枝は、市内のバイオマス発電所に運ばれ、発電原料として有効に利用されました。

(3) 松くい虫被害の減少

官民一体となった取り組みが積極的に行われるなかで、平成14年度に急激に増大した松くい虫被害は減少を続けています。

国有林における平成17年度の被害量は、最も被害が多かった平成14年度の1/10の水準まで減少する見込みです。(表-1)

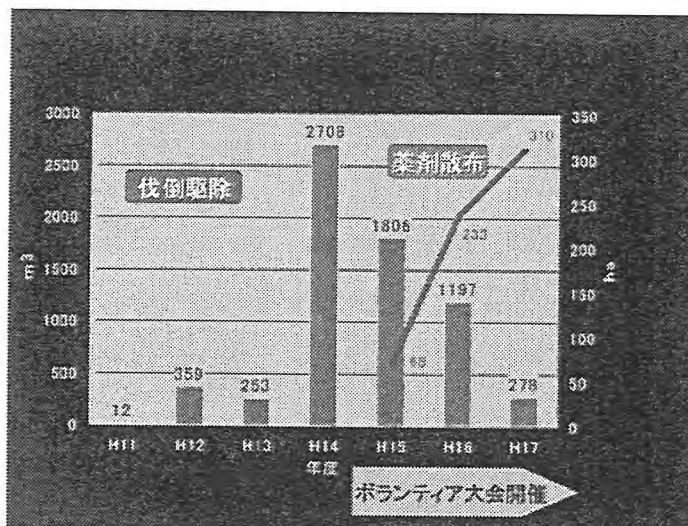


表-1 松くい虫被害の減少と薬剤散布面積の推移

3. 市民の声を聞きながらの「健康づくりのみち」の整備

(1) 生活環境保全林整備事業の実施

平成16年度から4年間、「風の松原」国有林の1/3にあたる約122haにおいて「生活環境保全林整備事業」を実施することになりました。

「風の松原」は家から歩いて行ける身近な森で、健康づくりの効果が多いに期待できることから、学識者の現地指導を受けて現地踏査を重ね、健康づくり、癒しに役立つ歩道の整備を行うこととしました。

平成16年度の実施にあたっては、次の点に留意し、延長1.8kmの「健康づくりのみち」を整備しました。

- ① 森が身近に感じられるコースと広がりを感じられる開放的なコースとを組み合わせ

わせて、変化をもたせました。(写真-4)

- ② コース新設にあたっては、踏み分け道を活用し、新設のための伐採を極力抑さえました。(写真-5)
- ③ 歩道周辺には、カスミザクラなどの花木やガマズミなどの実のなる木を極力残し、季節の彩りが感じられるようにしました。(写真-6)
- ④ 歩道には、伐採された木材を現地でチップに加工して敷き詰め、歩き心地を楽しめるようにしました。また、試験的に木材チップを散布した箇所と接着剤で固めた箇所をつくりました。
- ⑤ 歩く際の目安となるように、歩道沿線に距離標識を設置するとともに、休憩できるように数カ所にはベンチ兼用のものを配置しました。(写真-7)

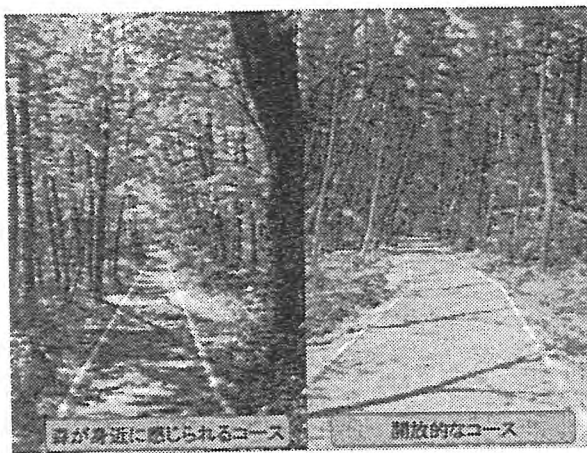


写真-4 変化が楽しめるコースの設定

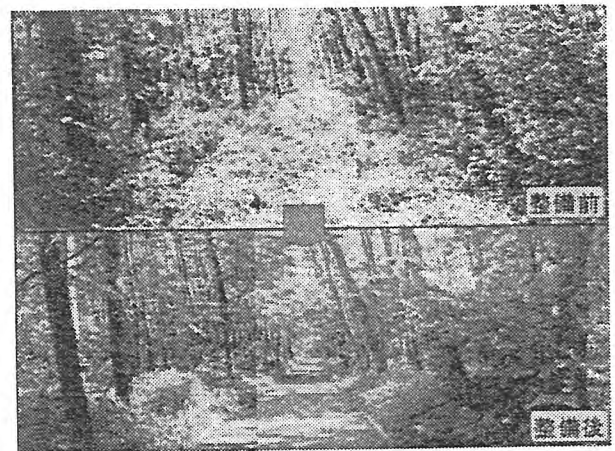


写真-5 整備前後の状況



写真-6 季節の彩りが感じられる整備



写真-7 歩く目安となる標識の整備

(2) 改善点を探るためのアンケート調査の実施

工夫をして行った歩道整備ですが、2年目にあたる平成17年度に事業を行うにあたり、利用者の評価、また改善点は何かを探るため、アンケート調査を行いました。

アンケート調査には156人の方から回答をいただき、関心の高さが伺えました。アンケートの結果は次のとおりです。

- ① 木材チップを敷き詰めた歩道の歩きごちについては、「歩きごちが良い」

が9割、悪いが1割弱と多くの方から評価をいただきました。

また、木材チップを接着剤で固めた箇所と固めていない箇所の固さの違いによる歩き心地については、「固めた方が良い」が45%、「どちらも良好」が30%、「固めていない箇所が良い」が25%と、固めた方が良い評価をいただきました。

なお、歩き心地が悪いと回答された方の理由としては、「ふかふかしすぎて歩くのに疲れる」が最も多くあげられました。(図-1)

- ② 散策の理由・効果について複数回答で調査したところ、散策の理由は、「健康づくり・体力アップのため」が8割、「ストレス発散や気分転換」が5割、「病気療養や生活習慣病予防のため」が4割と多く、植物や野鳥観察は2割でした。

散策の効果については、「ストレス発散や気分転換が図られた」が7割、「健康づくり体力アップ」が5割、「病気療養や生活習慣病予防」が3割と多くの方が効果について実感されていることがわかりました。

また、その他気づいたことについて記載いただいたものでは、「歩道の幅は狭くても良い」、「自然を生かした整備を」との意見が数件出されました。(表-2)

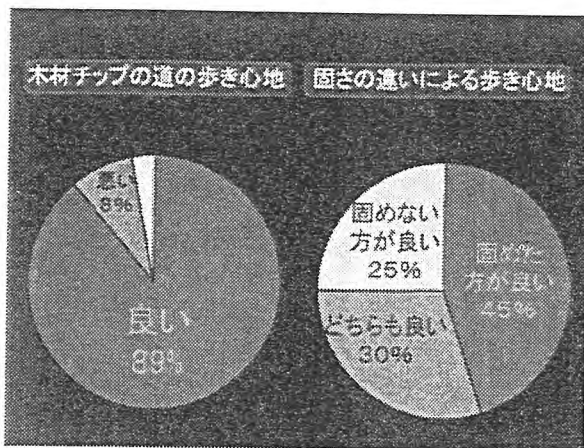


図-1 木材チップの道の歩き心地

散策の理由	健康増進(体力アップ) 78%
	ストレス発散や気分転換 54%
	病気療養・予防 39%
	植物・野鳥観察 19%
散策の効果	ストレス発散や気分転換 72%
	健康増進(体力アップ) 52%
	病気療養・予防 29%
その他	歩道の幅は狭くても良い 自然をいかした整備をしてほしい

表-2 散策の理由と効果等

(3) 17年度事業への反映

木材チップを敷き詰めた歩道は高い評価を受けたため、平成17年度も引き続き整備することとしました。

また、木材チップを固めた歩道が、比較的高い評価をうけましたが、車いすの利用が容易というメリットがある一方、経費がかかり増になるというデメリットがあるため、車いす利用が容易な既設道との連結部分へ主に採用することになりました。

歩道の幅が狭くても良いという意見については、歩道の幅を3m主体から2mを基本

(アンケート調査結果)	(事業への反映)
木材チップの道に高い評価	継続して整備
木材チップを固めた歩道への評価	車いす利用が容易な既設道との連結部分に採用
歩道の幅は狭くても良い	歩道の幅を2mに縮小
歩くのに疲れる	能代市により休憩用のイスを整備

表-3 アンケート調査結果の平成17年度事業への反映

とし、部分的には2m以下としました。

なお、木材チップの歩き心地が悪い理由が、「歩くのに疲れる」であるため、能代市の協力により休憩用の木製いすを設置することとしています。(表-3)

(4) ボランティアによるアフターケア

昨年度に整備した歩道の沿線では、取り除いたニセアカシアが多数の萌芽を発生させ沿線を埋める勢いでした。

市民ボランティアに協力をお願いしたところ、萌芽木の除去に積極的な協力が得られ、除去作業は4回に及びました。ニセアカシアは萌芽力が非常に強いいため、今後のコース延長部分も含めて、継続的に取り組んでいただけることになっています。

(写真-8)



写真-8 ボランティアによる
ニセアカシアの刈り払い

(5) 市民への積極的なPR

健康づくりの道は、検討段階や、完成後について地元紙に多数掲載されました。

地元の能代市では、散策マップで紹介するとともに、市内循環バスにPR広告を掲載するほか、教育機関、ツアーなどにも紹介するなど、幅広いPRが行われています。

(写真-9)



写真-9 市民への積極的なPR

おわりに

「風の松原」を歩くと、トレーニングで走っている若者から、のんびりと散歩されているお年寄りまで様々な方と行き交います。秋にはきのこを探す風景も見られ、造成当時の飛砂や津波から市民の生活を守る役割に加えて、市民の健康づくり、リフレッシュの場として身近な存在であることが強く感じられます。

署としては、この「風の松原」を、市民とともに松くい虫の被害から守り、そして、健康づくり、いやしの森として整備・保全することにより、市民の安全で快適な暮らしを守る「緑の遺産」として、より良い形で次の世代へと引き継いでいきたいと考えています。

